

戦略1 東京の特色を活かす観光振興

- ① 「食」の魅力の強化
- ② 文化資源の活用促進
- ③ ナイトタイム観光の促進
- ④ 多摩・島しょ地域の観光振興
- ⑤ より快適な観光を実現するための環境整備
- ⑥ 新たな観光テーマの開拓

- 世界の観光需要を東京へ取り込むためには、海外の他都市と差別化できる東京ならではの魅力を高めていくことが欠かせない。
- 和食に加えて世界中の多彩な食が集積し、食材にも恵まれた東京は世界に冠たる食の都であり、その強みを十分に活用し、さらに磨いていく必要がある。
- 江戸から続く歴史とアニメ等のポップカルチャーが共存する東京の文化も特色ある観光資源であり、また、ナイトタイムの観光も大きな可能性を秘めている。
- こうした面の重点的な強化とともに、東京のもう一つの顔である豊かな自然を有する多摩・島しょ地域の観光振興も着実に進めていく。
- また、これらの多様な観光コンテンツを誰もが快適に楽しめるよう環境整備を進め、旅のテーマが多様化し従来型ではない旅行のニーズが高まっている潮流を踏まえ、新たな観光テーマの探求にも取り組んでいく。

1 - (1) 「食」の魅力の強化

3年後の目指す姿

- ◆ 東京が有する多彩な食の魅力が世界の各地域で広く認知され、旅行者が東京を訪れる一層強力な誘因となっている。
- ◆ 飲食店の多言語対応が一層進み、外国人旅行者にとっての利便性が向上するとともに、ムスリム等多様な文化・習慣を持つ旅行者が、食の面でも安心して東京観光を楽しめる環境が整っている。

東京が誇る食の魅力の発信

現状・課題

- 「食」は日本・東京を訪れる外国人旅行者が大きな関心を寄せるコンテンツであり、その魅力を広く発信することは誘客の促進と消費の拡大に効果的である。
- 都は、大規模な食のフェスティバル「Tokyo Tokyo Delicious Museum」や「東京味わいフェスタ」を開催するとともに、海外のメディアやインフルエンサーを活用したプロモーションや、東京におけるガストロノミー・ツーリズムの魅力発信などを通じて、東京の「食」の素晴らしさを幅広くPRしている。



Tokyo Tokyo Delicious Museum

- 味や盛り付けのみならず、食材や調理法にまつわる歴史、料理人の姿など周辺のストーリーをあわせて発信することで、東京の食の魅力をより深く伝えることができる。
- 東京の各地域には、多彩な食材や料理などがあり、そうした地域の食の魅力を観光資源として掘り起こしていくことも重要である。
- 食品ロスの削減など、食におけるサステナビリティの確保も「食の魅力」のひとつであり、しっかりと発信していく必要がある。
- 東京の食の魅力には多様な側面があり、訴求するテーマに工夫を凝らしながら様々な手法で効果的に発信していく必要がある。



青梅・奥多摩ごぜん
(地場産物を活用したご当地料理の開発例)

具体的な取組

- フェスティバルの開催やメディアへのPRなどにより、東京の食の魅力を国内外に広く発信する。また各地の特産品の紹介等を通じて、東京から日本各地を周遊する気運にもつなげていく。
- 海外のメディア等を対象とした調理実演等のプレゼンテーションイベントを新たに実施し、東京が誇るハイレベルな食の魅力を効果的に発信していく。
- 東京産の農産物や水産物を用いた料理などを楽しむガストロノミー・ツーリズムの魅力を、テーマ等に工夫を凝らしながら効果的に発信していく。
- 観光協会や民間企業など地域の多様な主体が共同で実施する、特産品や地場産品を活用したご当地料理の開発などを支援していく。
- 食の魅力を発信するイベント等では都の食品ロス対策の取組等についてもあわせてPRしていく。

食の多様性への対応支援

現状・課題

- 都はこれまで、飲食店におけるメニューの多言語化を進めるとともに、ムスリムやベジタリアンに対応したメニューのあるレストランを紹介するリーフレットを作成するなどして、東京を訪れる外国人旅行者の利便性向上を図ってきた。
- 2023年度からは、ベジタリアン又はヴィーガン料理を提供する飲食店としての認証を第三者認証機関から新たに取得する際の経費の支援も開始している。
- 国際観光都市として、多様な文化・習慣を持つ旅行者等が安心して観光を楽しめる環境の整備をさらに進めていく必要がある。



(左) 東京ムスリム旅行者ガイド
(右) 東京ヴィーガン&ベジタリアンレストランガイド

具体的な取組

- 観光関連事業者向けに、外国人旅行者の多様な文化・習慣の理解に必要な知識・ノウハウなどに関する情報提供や、受入対応の先進事例を紹介するセミナーを実施する。
- ヴィーガンやハラールなど様々な食の多様性に対応したレシピの開発を行い、飲食店のメニューの多言語化を支援するウェブサイト「EAT東京」に掲載して普及を図る。
- 飲食店による、食の多様性向上を含む新たなサービス開発等の取組を、経費の支援やアドバイザーの派遣により後押しする。

1 - (2) 文化資源の活用促進

3年後の目指す姿

- ◆ 地域の特色ある文化資源を活用した観光振興が一層活性化し、旅行者に、その地域ならではの魅力的な文化体験が提供されている。
- ◆ 東京の魅力ある観光資源である伝統芸能・伝統工芸、歴史的建造物等の文化財が適切に保存・活用されている。
- ◆ 「アニメ東京ステーション」が、アニメに関心のある多くの観光客を惹きつけ、また、都内のアニメの名所の周遊が人気の観光ルートとなっている。

歴史や芸術等の文化資源の活用

現状・課題

- 江戸から続く歴史は、「Old meets New」の一端となる東京の極めて重要な観光資源である一方、海外において「江戸」の知名度は必ずしも高くない。江戸から東京へと続く奥深い魅力を積極的に発信し、国内外からの観光客を惹きつけることが必要である。
- 観光協会や商工会などの団体等による、伝統芸能・伝統工芸や歴史的建造物といった地域の特色ある文化資源を活用した観光振興の取組をサポートしている。また、観光資源となる建物や技術等を保全するための取組を支援している。
- 地域の文化資源を活かした観光振興を進めていく上では、都民がそれぞれの地域の歴史・文化についての理解を深め、その保全への意識を高めていく必要がある。

- 映画等の映像作品も有力な文化コンテンツであり、都は国際的な映画祭などの共催やロケの誘致、撮影の円滑化などにより、映像作品を活用した東京のプレゼンス向上を図っている。

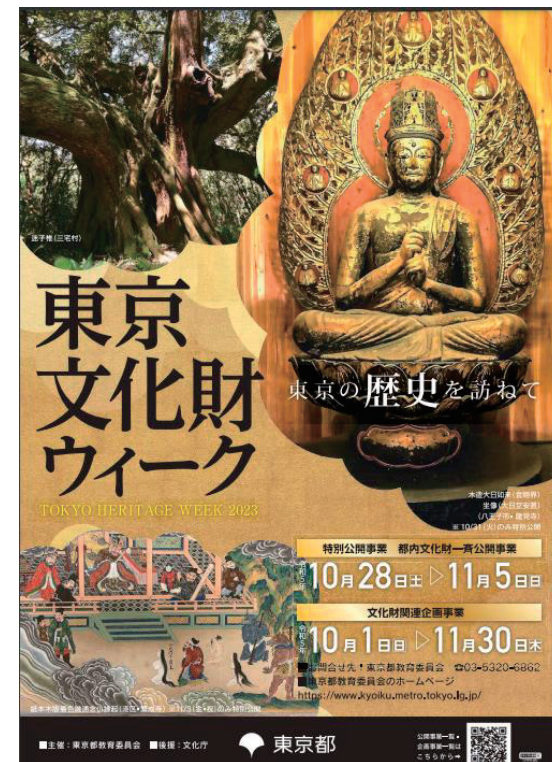
具体的な取組

- 大規模改修工事を経て、空間デザインをリニューアルして江戸東京博物館を再オープンし、東京のアイコンとして多くの観光客を呼び込む。
- 文化財庭園など観光資源となる公園の整備を通じて、伝統文化の発信を推進する。
- 「江戸東京きらりプロジェクト」を推進し、「Old meets New」をコンセプトに、江戸東京の伝統ある技や老舗の産品といった「東京の宝」に磨きをかけ、その価値と魅力を世界に発信する。
- 地域固有の歴史・文化を土台に形作られた自然・景観・伝統工芸など地域ならではの資源を活用した自治体による新たな取組への支援を拡充する。
- 文化・芸術団体と観光協会等の連携による、日本文化と自然などの地域資源を結びつけた新たなイベントの実施等を支援し、都内各地の賑わいを創出する。



能公演、和楽器・能体験ワークショップ等（町田市）

- 観光関連事業者を対象に、東京の魅力発信に資する建物や技術等を維持保全するための経費の補助等を実施する。
- 江戸から続く東京の歴史・文化の魅力を活用し、東京を訪れる旅行者の周遊を促進するための取組を新たに実施する。
- 江戸情緒あふれる景観の創出などを通じて、地域の認知度向上や集客力の強化を図る取組を新たに実施する。
- 「文化財ウィーク」において、文化の日（11月3日）を中心に、都内全域の文化財の公開やそれに関わる様々なイベント等を実施し、都民や旅行者等が文化財に触れる機会を提供して、その魅力を伝えていく。
- 都指定文化財の案内板や文化財情報サイトの多言語化を行い、外国人旅行者等に東京の魅力を発信していく。
- アジア最大級の映画の祭典である「東京国際映画祭」について、多様性に富んだ社会の実現につなげていく観点から、都が共催する部門を拡充する。



東京文化財ウィークの案内
(2023年)

アニメコンテンツ等による誘客

現状・課題

- アニメやマンガ等は世界中に根強いファンを持つ有力な観光コンテンツであり、都は関連施設やイベント情報といった都内のアニメ関連観光情報を、ウェブ等を通じて多言語で発信している。
- また、区市町村や地域の観光協会等がアニメ等を活用した観光振興に取り組む際、イベント実施等のソフトと施設整備等のハード、両面の取組をサポートしてきた。
- さらに、アニメ等に縁のあるスポットやアニメ等を活用したデザインマンホール等を巡るデジタルスタンプラリーの実施を通じて、観光客の回遊性の向上を図ってきた。
- 豊島区池袋に新たに開設したアニメの拠点施設「アニメ東京ステーション」を最大限活用し、アニメツーリズムを一層推進していく必要がある。



**アニメ東京
ステーション**
ANIME TOKYO STATION

アニメ東京ステーション ロゴマーク



アニメ東京ステーションのモニュメント

具体的な取組

- 「アニメ東京ステーション」において、人気アニメを活用した企画展示をはじめとする様々なコンテンツを提供して積極的な集客を図り、アニメツーリズムを一層推進する。
- また、アニメ作成を体験できるワークショップの実施などを通じてアニメへの関心を喚起し、アニメ産業の将来の担い手育成につなげていく。
- 「アニメ東京ステーション」を起点として観光客の回遊性を高めていくために、国内外の観光客向けに、アニメ等の舞台となった場所や施設、関連店舗などを巡る周遊ルートを案内するマップを作成・配布する。
- 地域におけるアニメ等を活用した誘客の取組への支援を充実し、地域の観光資源としてのアニメ等の活用を一層促進していく。



アニメ制作工程の展示
(アニメ東京ステーション 地下1階)

アニメ東京ステーションの概要

所在地：藤久ビル東五号館 地上1～2階、地下1階（豊島区南池袋2-25-5）

- 企画展示（人気作品の映像上映、名シーン等の体験コーナーやキャラクターのパネル展示等）
- アニメのキャラクターや名シーンで構成されたモニュメントの展示
- 原画やシナリオ、絵コンテ、セル画など貴重なアニメ素材の展示を通じたアニメ制作工程の紹介
- アニメ・マンガのイベント情報等の発信
- アニメ制作を体験できるワークショップやアニメ関係者によるトークショーの実施 など

先進的都市としての魅力の発信

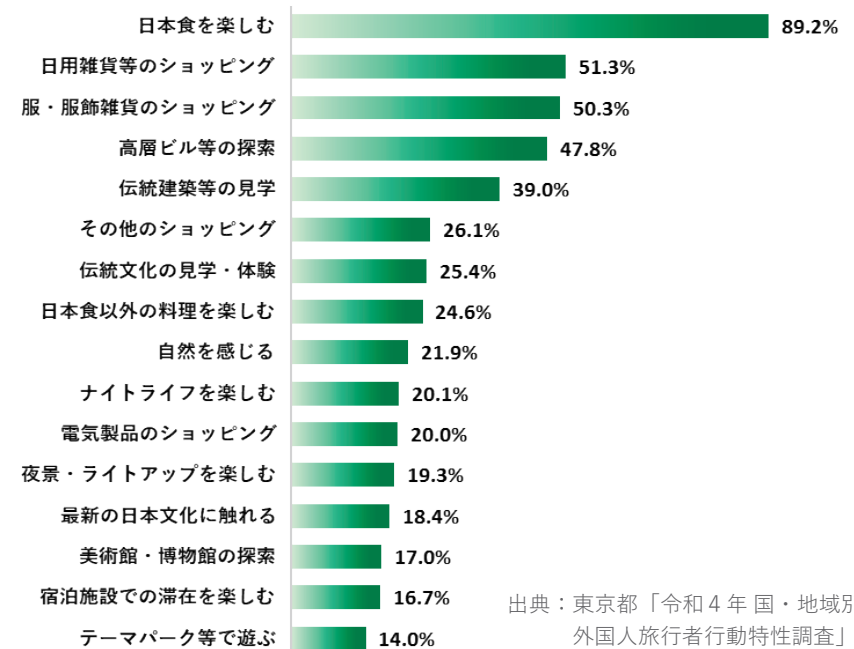
現状・課題

- 高層ビルや繁華街に象徴されるような、都会的、先進的な都市のイメージに魅力を感じる外国人旅行者も多く、その魅力を効果的に活用することが重要である。
- 渋谷のスクランブル交差点をはじめとした大都市の象徴的な都市景観等を、プロモーションにおいて活用している。
- 最先端のテクノロジー等により、世界共通の都市課題を克服する「持続可能な新しい価値」を生み出す「Sustainable High City Tech Tokyo= SusHi Tech Tokyo」を世界に向けて発信している。

具体的な取組

- 活力あふれる大都市、先進的な取組が進んでいる都市としてのイメージをPRできる景観を、プロモーション映像や広告、現地に赴いてのプロモーション活動などにおいて積極的に活用していく。

訪都中に行った行動（複数回答）



出典：東京都「令和4年国・地域別外国人旅行者行動特性調査」



東京の都会的、先進的イメージを象徴する都市景観

1 - (3) ナイトタイム観光の促進

3年後の目指す姿

- ◆ プロジェクションマッピングが都内各地で面的に展開され、東京の夜を象徴するキラークンテンツとなっている。
- ◆ 夜間の時間帯に地域の特色を活かした催しなどが豊富に提供されることで、親子連れの観光客なども安心してナイトタイム観光を楽しみ、消費の拡大と観光需要の分散に寄与している。

プロジェクションマッピングの更なる展開

現状・課題

- プロジェクションマッピングを、東京の夜を彩る新たな観光資源とするべく、プロジェクションマッピングの国際大会と光や音楽で彩られた光の祭典で構成されるイベント「TOKYO LIGHTS」を開催するとともに、街中でも、再開発エリアを活用したプロジェクションマッピングを実施してきた。
- 東京の夜におけるプロジェクションマッピングの存在感を高めていくためには、世界への発信力の高い建築物への投影とともに、イベント等における単発的な実施にとどまらず、通年の取組も必要である。
- プロジェクションマッピングの実施には地元自治体や関係機関との調整が必要になるため、民間での面的な広がりに向けては、支援体制の構築が重要である。



TOKYO LIGHTS 2023

具体的な取組

- 東京を象徴する名所や、歴史的価値を有する建築物などにおけるプロジェクションマッピング事例を創出していく。
- 都庁舎を投影面とした通年でのプロジェクションマッピングを新たに実施する。
- 民間事業者等によるプロジェクションマッピングの実施に関する総合相談窓口を新たに設け、区市町村や関係機関との調整をサポートすることにより、都内各地へのプロジェクションマッピングの拡大を後押しする。
- プロジェクションマッピングの実施に関する区市町村や民間事業者への経費の助成について、規模や仕組みの充実・改善を行う。

地域の特色を活かしたナイトタイム観光の促進

現状・課題

- 東京観光を十分に楽しんでもらうためには夜間等の時間帯を活用することが重要である。ナイトタイムにおける観光の活性化は消費額の拡大に効果的であるのみならず、治安の良さという東京の強みと相俟って、東京観光の楽しみ方として、大きな伸びしろを有している。
- また、夜間や早朝の観光の活性化を図ることは、観光需要の時間帯の分散にもつながる。
- 都はこれまで、桜並木や建造物などを活用したライトアップ実施への支援を行ってきた。
- また、地域における夜間・早朝のイベント等の実施や観光コンテンツ開発に対する支援も実施している。ナイトタイム観光の促進には、地域が主体となった取組の活性化が不可欠である。
- 家族連れの旅行者も安心してナイトタイムの観光を楽しめるようにする上で、アート鑑賞やミュージカルなどのエンターテインメントの催しを夜間の時間帯においても充実させることや、夜間の公園の活用促進などが有効である。また、夜でも安心して散策できるようガイドの存在も重要となる。



ライトアップイベント（北区）

具体的な取組

- 都内の建造物や、春の桜や秋の紅葉を活用したライトアップの実施を支援し、地域の魅力を高めて観光客の誘致につなげていく。
- 区市町村や観光協会等が実施する、地域ならではの観光資源を活かした夜間早朝イベントの実施など、誘客につながる新たな取組に対する支援について、支援対象となるメニューの例示などにより利活用を促進していく。
- ナイトタイムの観光を安全に楽しめるよう、東京都観光ボランティアによるガイドサービスにおけるナイトツアーを拡充する。
- 噴水や花のライトアップ等により、都立公園の夜間利用を促進していく。
- 都立の美術館・博物館において、夏期の夜間時間帯に「サマーナイトミュージアム」として、開館時間延長や学生の観覧料割引などを実施する。
- 様々な商業施設や文化施設が集積し、外国人旅行者からも人気の高い六本木を舞台としたアートの祭典「六本木アートナイト」を実施する。
- 日本の伝統的な花火に加え、デジタル技術等を活用したナイトタイムイベントを新たに実施し、全世界に発信する。



公園でのライトアップ
(都立浮間公園)



六本木アートナイト
©六本木アートナイト実行委員会

1 - (4) 多摩・島しょ地域の観光振興

3年後の目指す姿

- ◆ 多摩・島しょ地域において、自然や文化など地域固有の資源を活かした多様なコンテンツの開発や観光施設・宿泊施設の整備等により、一層の誘客が進んでいる。
- ◆ 多摩・島しょ地域の豊かな自然やサステナビリティを重視した観光が、東京の観光のイメージとして世界に広く認知されている。

現状・課題

- 多摩・島しょ地域へ旅行者を誘致するため、案内板や標識等のハード整備や、イベントなどソフト事業の実施を支援するとともに、動画やウェブサイトなど多様なメディアを活用して国内外への魅力の発信に取り組んできた。
- 地域固有の自然や文化資源を活かした体験型観光のニーズが高まっており、多摩・島しょ地域においても、地域の特性を活かした訴求力ある取組が求められている。
- 多摩・島しょ地域には自然公園が広がっており、自然の保護と利用のバランスをとりながら観光資源としても活用していくことが必要である。
- クルーズ船の寄港は島しょ地域の観光における消費拡大等に有効であり、誘致促進等とともに、乗客をターゲットにした島内の観光コンテンツの開発を進めていく必要がある。
- 多摩・島しょ地域の観光はシーズンによる繁閑の差が大きく、観光関連事業者の持続的な事業運営を困難とする一因になっている。また、島しょ地域では台風や噴火等の自然災害など特有のリスクを踏まえ、民間事業者の宿泊施設整備等への意欲を高める必要がある。

具体的な取組

- 多摩・島しょ地域の市町村が行う観光施設整備や情報発信、観光振興イベント等の事業を支援する。
- 観光情報サイト「TAMASHIMA.tokyo」において、地域の観光スポットに関する記事や自然の魅力を幅広く発信することに加え、多摩地域のもつ良好なイメージを広く定着させ、「訪れたい」地域としてのブランディングを新たに展開する。
- 自然や食などの豊富な地域資源を活かした体験型コンテンツの開発や磨き上げ等を行う「アドベンチャーツーリズム」を推進する取組を支援し、誘客を促すとともに地域での消費拡大を図る。
- 自然公園での観光を誰もが楽しめるよう、デジタル技術を活用した情報発信を拡充する。
- クルーズ船について、誘致の促進を図り、受入気運の醸成を進めるとともに、乗客が島の滞在を楽しみ旅の満足度が高まるよう、島ならではの観光資源を活用したアクティビティの開発等への支援を、新たに実施する。
- 季節に左右されず年間を通じた安定的な集客につながるプロモーションや観光施設の整備等に対する支援を新たに実施し、地域の観光産業の持続可能な発展につなげていく。
- 民間事業者が行う、島しょ地域における自然環境と地域経済に配慮した新たな宿泊施設の整備を支援する。



観光施設の整備（赤崎遊歩道（神津島））

1 - (5) より快適な観光を実現するための環境整備

3年後の目指す姿

- ◆ 障害者や高齢者等が積極的に外出し、様々な交通機関を快適に利用しながら旅行などを楽しめる環境の整備が一層進んでいる。
- ◆ 初めて東京を訪れる観光客でも快適に東京観光を楽しむことができるよう、観光情報センターでの情報発信や観光ボランティアによる案内など、観光客への案内・サポート機能が向上している。

アクセシブル・ツーリズムの推進

現状・課題

- これまで、障害者や高齢者等が安心して都内観光を楽しめる環境の整備に向けて、宿泊施設のバリアフリー化支援やバリアフリー情報の集約・発信など、様々な取組を行ってきた。
- バリアフリー情報の提供を一層進めるとともに、2025年に東京で開催されるデフリンピックに向けて、聴覚に障害のある方へのサポート体制を強化していく必要がある。
- 障害者や高齢者等にとって満足度の高い都内観光を実現するためには、ハード整備のほか、障害者など多様な人々とコミュニケーションをとる際の心構えやノウハウを観光関連事業者が習得するとともに、都民全体の意識や知識の底上げを図っていく必要がある。
- アクセシブル・ツーリズムの充実に向けて、新たな技術を活用していくことも重要である。

具体的な取組

- バリアフリー情報を提供するアプリ等を開発・運営する民間事業者が、その利便性向上を図るためにシステム改修などを行う際の経費の支援を新たに実施し、障害者等の一層快適な旅行の実現につなげていく。
- 東京でのデフリンピック開催に向けて、観光ボランティアの聴覚障害者への対応力向上を図るための研修を実施するとともに、筆談タブレット等の配備を充実する。
- 聴覚障害者とのコミュニケーションを円滑化するツールの導入を含め、宿泊施設のバリアフリー化の取組を支援する。
- 障害者の受入れに積極的な事業者や、区部・多摩・島しょのエリアごとに人気観光コースにおけるバリア及びバリアフリー情報、トイレ情報、移動時のポイント等の情報を集約した総合ウェブサイト「東京観光バリアフリー情報ガイド」に観光コースの360度動画を掲載して効果的な情報発信を図る。
- 障害者等への道案内や簡単な介助の方法などを掲載した携帯版ハンドブック「私たちにできること」を都民や観光ボランティア等に配布し、都民のおもてなしの心の醸成を図る。
- 障害者や高齢者等を含む誰もが、ドローンを自ら操作することでリアルな観光を楽しめる、新しい形のアクセシブル・ツーリズムを推進していく。
- 東京の豊かな自然を、年齢や障害の有無に関わらず、誰もが安心して楽しめる自然体験型観光の充実に向けた取組を推進するため、事業者向けのワークショップや、車いす等の機器の導入支援などを新たに実施する。



ドローンを活用したアクセシブル・ツーリズム

観光客への案内等機能の向上

現状・課題

- 都内5か所に観光情報センターを設置し、観光客への案内・情報発信を行っている。東京を訪れる旅行者の満足度の向上にむけて、東京の魅力ある観光情報をきめ細かく提供するための体制を充実することが重要である。
- 東京の観光公式サイト「GO TOKYO」を運営し、国内外に向けて観光情報を発信している。GO TOKYOは東京観光に関心がある方々にとって重要な情報源であり、サイト内容の更なる充実は東京への誘客の促進に有効である。



観光情報センター（都庁）

- 地域へ愛着を持ち、外国人旅行者をサポートしたいという意欲を有する都民等が観光ボランティアとして活躍できるよう、支援・育成を行っている。観光ボランティアは観光客へのきめ細かい案内を提供する上で重要な存在であり、その充実を図っていく必要がある。
- また、中高生を「おもてなし親善大使」として任命し、様々な活動や研修を実施するとともに、大学生等の観光ボランティア参加を促進しており、次世代を担う人材の育成に向けて、こうした取組も充実していく必要がある。
- 外国人旅行者の東京観光の満足度を高めるためには、観光関連事業者が外国人旅行者受入れのノウハウの習得や、旅行者が快適に過ごせる環境の整備を進めることが必要である。

- 障害者や外国人観光客を含め誰もが楽しめる演劇等エンターテインメントのコンテンツを増やしていく必要がある。
- 外国人旅行者にとって空の玄関口となる空港の整備は、国際観光都市としての競争力を向上していく上で重要である。
- スマートフォンでインターネットから情報を得ながら観光することが一般的になっており、快適な観光を実現するために安全・良好なインターネットアクセス環境は必須である。

具体的な取組

- 都内各所の観光情報センターにおいて、ビデオ通話やチャット等によるオンライン観光案内も活用して、旅行者の多様なニーズに対応した情報提供を行う。
- 交通の要衝であり、全国からのバスの玄関口となるバスターミナル東京八重洲に東京観光情報センターを新たに整備し、旅行者への情報提供体制を充実する。
- 東京の観光公式サイトにおける観光関連のコンテンツの充実や、サイトを通じたエンターテインメント等のチケット購入の円滑化などに取り組む。
- 将来のボランティアや観光人材としての素地を養う機会を提供するため、中高生を対象とした「おもてなし親善大使育成塾」やスキルアップ研修、大学生等を対象とした観光ボランティア参加促進プログラム等を充実する。



東京の観光公式サイト

- 東京 2020 大会のレガシーとしてボランティア文化の定着を図っていくため、新規募集等を継続的に実施し、観光ボランティアを通じて観光振興の担い手として活躍したい都民等の参加の機会を確保する。また、観光ボランティアが活躍できる環境を整えるなど、円滑なボランティア活動を支援する。
- 観光関連事業者向けに、外国人旅行者等の受入れについて基本的な知識や技術を習得するセミナーや、個別の課題に対応するためのアドバイザー派遣等を実施する。
- 東京を訪れる誰もが芸術文化やエンターテインメントなどの観光を楽しむことができるよう、手話通訳や多言語への翻訳などアクセシビリティ向上についての支援を充実させる。
- 羽田空港について、今後の需要予測等を基に更なる機能強化の検討を国に働きかけるとともに、ビジネスジェットの受入体制の強化策を検討する。
- 安全で利便性の高い国際的なWi-Fi接続基盤であるOpenRoamingに対応したWi-Fiの整備を、TOKYO FREE Wi-Fiを含めて都内全体に広げ、外国人旅行者が快適にインターネットにアクセスできる環境整備を進めていく。



観光ボランティアによる案内

※ OpenRoaming：公衆 Wi-Fi サービス関連事業者の業界団体であるWireless Broadband Alliance (WBA) による国際的なWi-Fi 相互接続基盤

※ TOKYO FREE Wi-Fi：東京都が提供する無料のWi-Fiサービス



OpenRoamingに対応した
TOKYO FREE Wi-Fiのステッカー

1 - (6) 新たな観光テーマの開拓

3年後の目指す姿

- ◆ ニーズを捉えた新しいテーマ・スタイルのツーリズムが東京で提供されている。
- ◆ これまで観光資源とはみなされなかったコンテンツやサービス等に新たな可能性が見いだされ、観光に活用されるようになっている。

現状・課題

- 個人の志向・関心等による旅行のテーマや目的の多様化が進み、名所巡りや美食といった従来型の観光ではない観光スタイルへの注目が高まっている。かつてエコツーリズムやインフラツーリズム等が新しい観光として注目されたように、今後、様々な新しいツーリズムが生まれてくる可能性がある。
- 高度な美容技術や美容院等での丁寧なおもてなしなど、東京の日常の中でも、外国人旅行者にとって観光として魅力的な誘因となり得るものがあり、観光コンテンツとしての活用を推進する必要がある。

具体的な取組

- 今後ニーズが高まる可能性のある新しい観光テーマを探求するためのリサーチを行い、次なる施策展開につなげていく。
- 外国人旅行者等が、美容技術など東京の先進的で快適なサービスを体験するモデルコースを新たに作成することにより、多様な体験型観光を推進する。